

## 北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和7年5月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2～3）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口でごく弱い噴気を観測しました。山麓に設置した監視カメラでは、今期間、噴気は観測されていません。引き続き、噴気活動は低調な状態です。

#### ・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図4）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図5、図6）

GNSS連続観測では、2024年1月以降、特段の変化は認められていません。長期的には、山頂火口原付近を挟む基線で断続的に伸長傾向が続いています。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次の火山活動解説資料（令和7年6月分）は令和7年7月8日に発表する予定です。

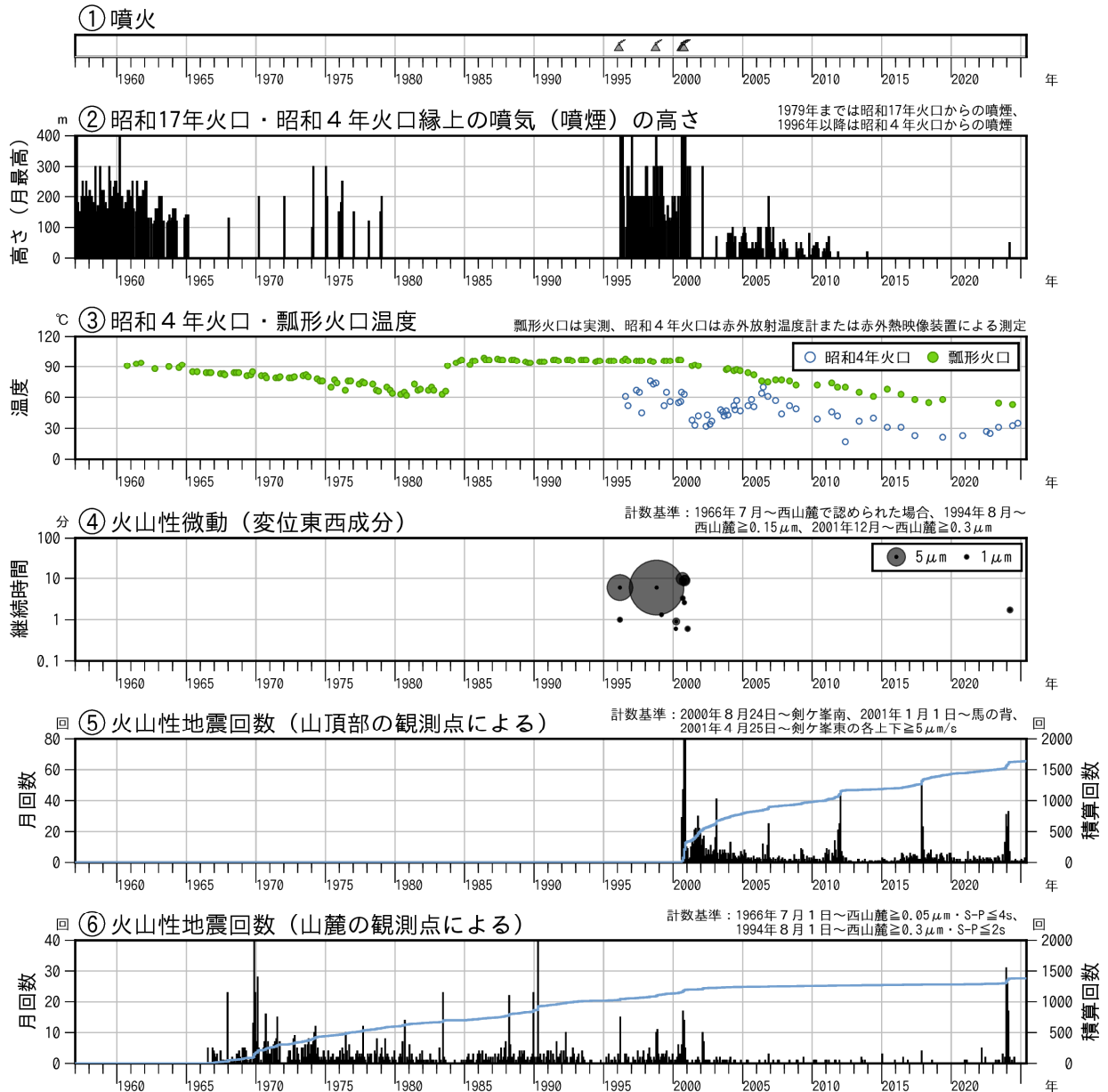


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2025年5月）  
各火口の位置は図7、図8を参照してください。

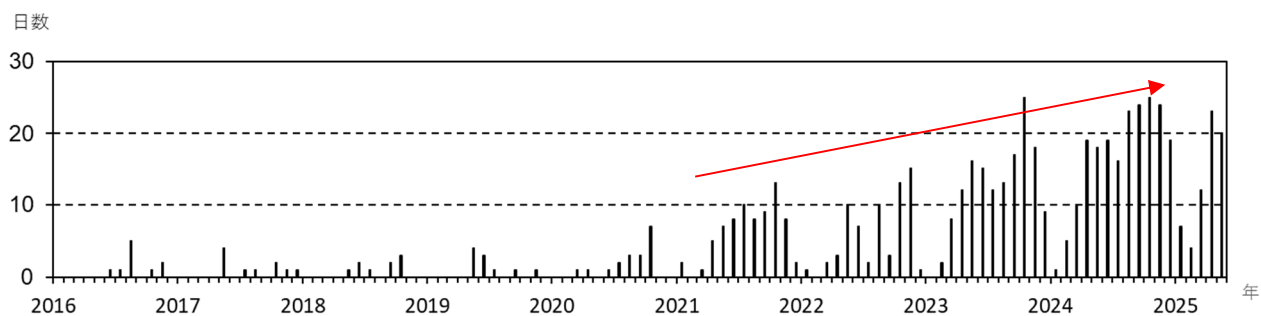


図2 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口のごく弱い噴気を観測した日数（2016年1月～2025年5月）  
 山頂部に設置した剣ヶ峰監視カメラ及び駒ヶ岳山頂（道）監視カメラ（位置は図7、  
 図8参照）による観測結果です。  
 冬季は雪氷付着のため欠測日が多くなる傾向があります。



図3 北海道駒ヶ岳 南西側から見た昭和4年火口付近の状況（剣ヶ峰監視カメラによる）

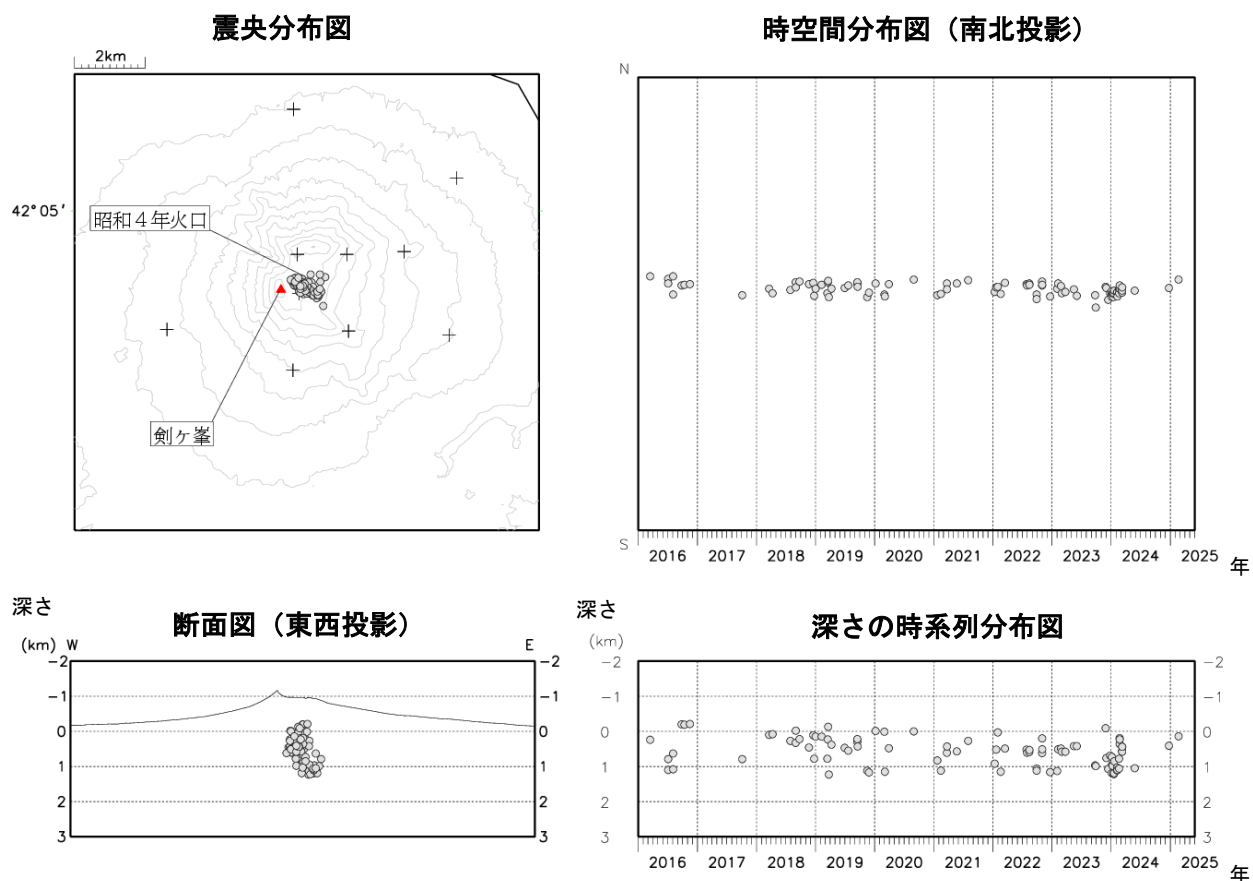


図4 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2016年1月～2025年5月）

- ：2016年1月～2025年4月の震源   ＋：地震観測点
- ・今期間は、震源の求まった地震がありませんでした。

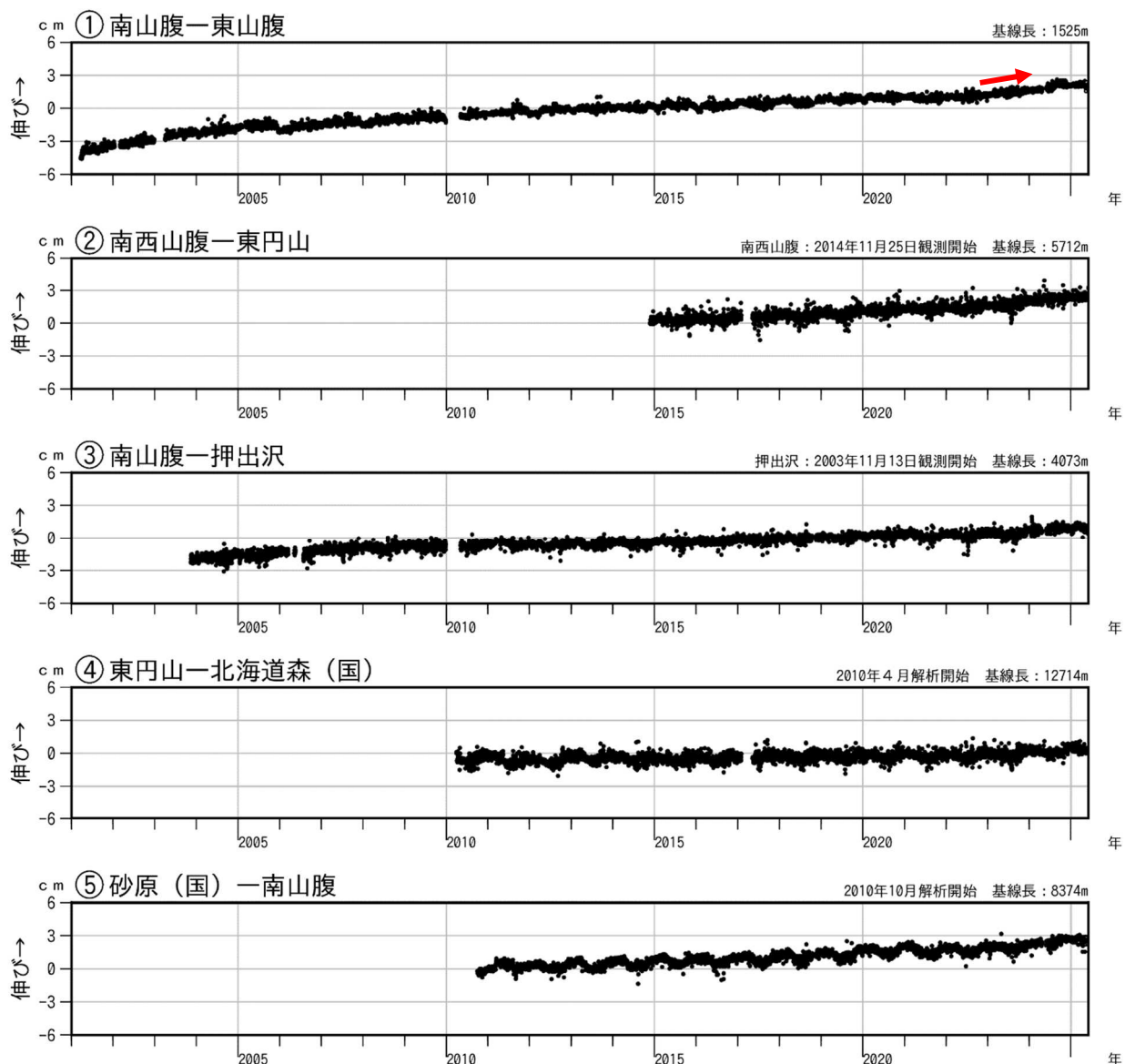


図5 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2025年5月）  
 グラフ①～⑤は図6の観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。  
 グラフの空白部分は欠測を示します。

- ・2022年頃から山頂部の一部基線でわずかな伸長（赤矢印）が見られていましたが、2024年1月頃からは概ね停滞しています。

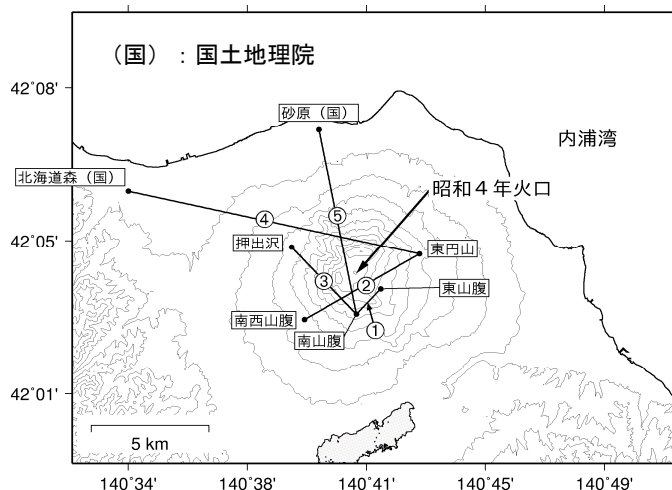


図6 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測の観測点配置図

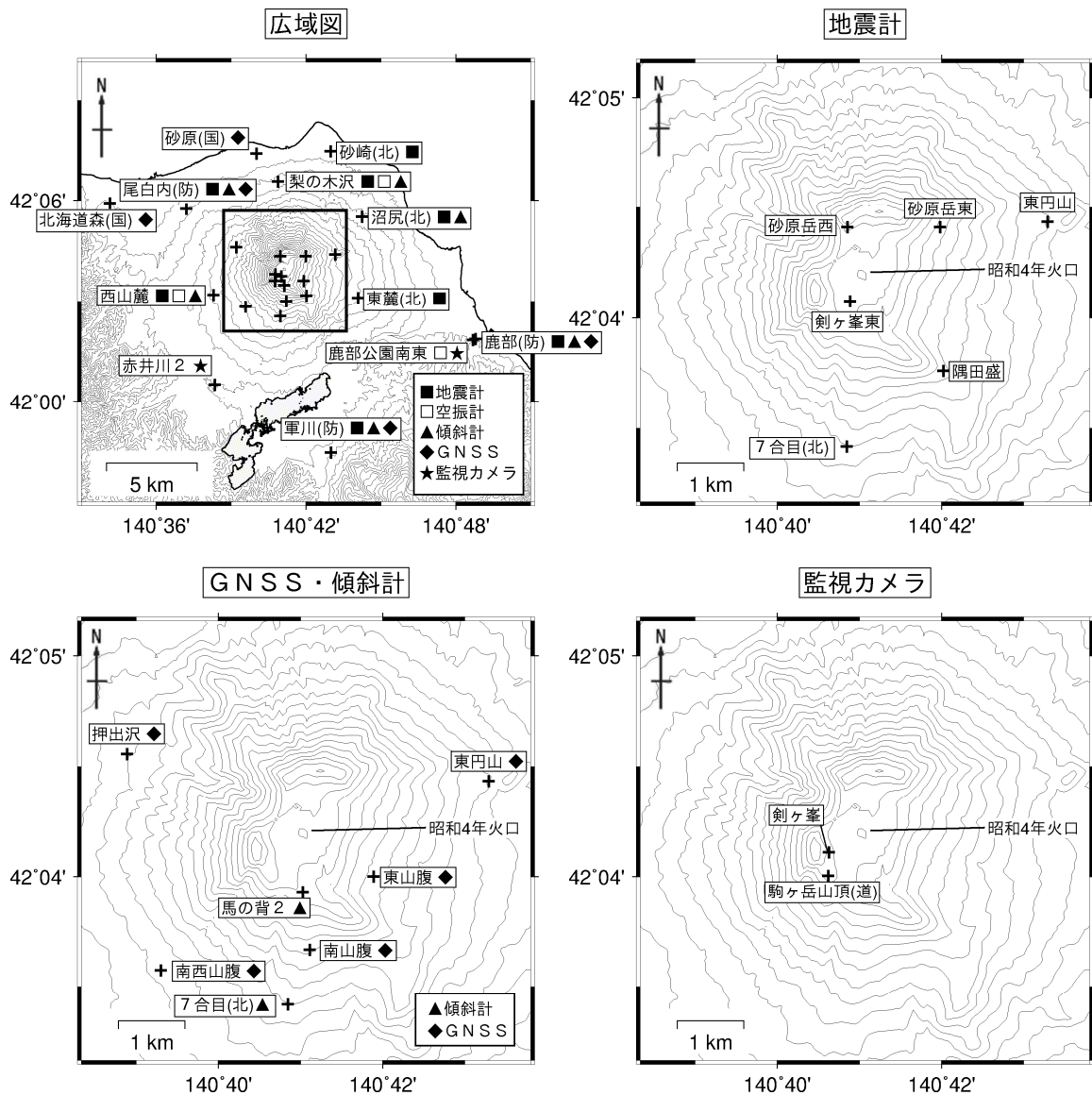


図7 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。+印は観測点の位置を示します。気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院 (北)：北海道大学 (道)：北海道  
(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所



図8 北海道駒ヶ岳 山頂火口原周辺図